



視察研究会報告（四国方面） （2003年2月20（木）～2003年2月22日（土））

安慶名のまちづくりを考える上では、他地区での取り組みや活動を学ぶことも大切です。

そのため、2月20日より3日間、四国方面を中心に商業施設や市場をはじめ、現在施行中の区画整理事業地などの視察を行い、参加者は事業に対する理解を深めるとともに、安慶名地区では何ができるのか？、どういう体制が必要なのか？等について視察先で活発な意見交換をしました。

主な視察先（街路市、潮江西部地区、ひろめ市場）



【街路市】

道路上に農家が持ち寄った野菜や果物等を並べ、地域に根付いた「生活市」として機能する市場です。
この街路市で特徴的なのは、地域の粘り強い交渉により、道路の占有許可、使用許可を取り、現在も運営協議会等により管理・運営を行っている点があります。



【潮江西部地区（区画整理地区）】

地区面積、コミュニティ住宅建設等、安慶名地区と類似する施行中の地区で特に換地や補償等に対する住民との関わり方や高齢者に配慮したバリアフリー住宅等について学びました。



【ひろめ市場】

商店街に隣接する空スペースを仮設店舗併用の立体駐車場としてつくられた商業施設で、小規模な商店が集約された衣食住を兼ね備えた市場です。視察参加者からも安慶名のイメージに近いとの声が多かった事例です。

視察参加者の声



商業建物に費用をかけて立派なものをつくるのではなく、その中身をどうするかが重要である。（コストはかけなくても良い。）
立派すぎる商店街ではなく、人と人が声をかけあって心の通いあう商店街づくりを考える必要があります。
近くにあるものを工夫することが大切である。（安慶名にも「素材」はある。どうやって活かすか？）
良い商店街をつくるよりもそれをいかに維持、発展させていくかがポイントである。

等

まちづくりニュースの内容及びまちづくりに関するお問い合わせ・ご相談は下記までお尋ねください。

具志川市建設部市街地整備推進室
(098) 974 - 3111
siseibi@city.gushikawa.okinawa.jp

内線 406

e-mail :



安慶名地区まちづくりニュース 第4号

発行：具志川市建設部市街地整備推進室

2002年度 ワークショップ最終成果の報告会を行いました （都市・住宅ワークショップ、商業ワークショップ）

平成15年1月の商業ワークショップの成果報告に引き続き、同時並行しておりました「都市・住宅ワークショップ」のプランもまとめ、両ワークショップの合同報告会を安慶名まちづくり推進センターで開催しました。

都市・住宅ワークショップでは、今年度、幹線道路をはじめとした「道」の使い方、そこでの歩行者の過ごし方など、公共施設のデザインに関する検討を進めてまいりました。（検討内容は裏面参照）

また、来年度は住宅の配置方針、デザイン方針の検討を行う予定であります。

今回のような地域と一体となった計画づくりはこれまでの区画整理事業では画期的なものであり、今後も引き続き実施していきたいと考えております。



写真：2002年度検討結果の説明

都市・住宅ワークショップ

～開催経緯～

- 第1回 平成14年 8月 2日（金）
『安慶名のみちづくりを考えよう』
- 第2回 平成14年10月24日（木）
『県道75号線の断面構成を検討しよう』
- 第3回 平成14年12月 5日（木）
『18m道路を検討しましょう』
- 第4回 平成15年 1月28日（火）
『緑道・公園のイメージを膨らませよう』
『推進センターの活用方法を検討しよう』
- 第5回 平成15年 3月 7日（金）
『今年度のまとめ』『来年度の進め方』

場所：安慶名まちづくり推進センター



写真：報告会の様子（安慶名まちづくり推進センター）

商業ワークショップの検討結果については「安慶名まちづくりニュース 第2号」に掲載しております。

～ 2002年度 都市・住宅ワークショップの検討結果と今後の課題～

【都市・住宅ワークショップにおける検討事項】

今年度のワークショップでは、2002年8月以降、4回にわたり、以下の事柄を中心に検討を進めてきました。

どのような「まち」にしたいのか？
 どのような「みち」にしたいのか？

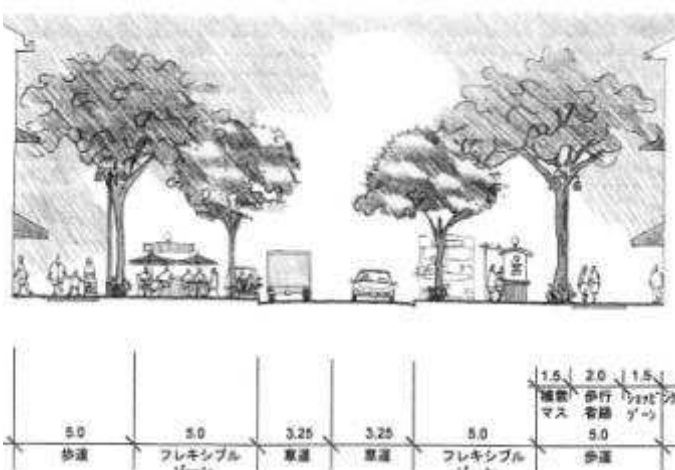
具体的な「場」の計画づくり

- 県道75号線（計画幅員26.5m）の使い方と断面構成
- 計画道路（幅員18m）の使い方と断面構成
- 緑道と公園のイメージ
- 安慶名まちづくり推進センターの活用方法



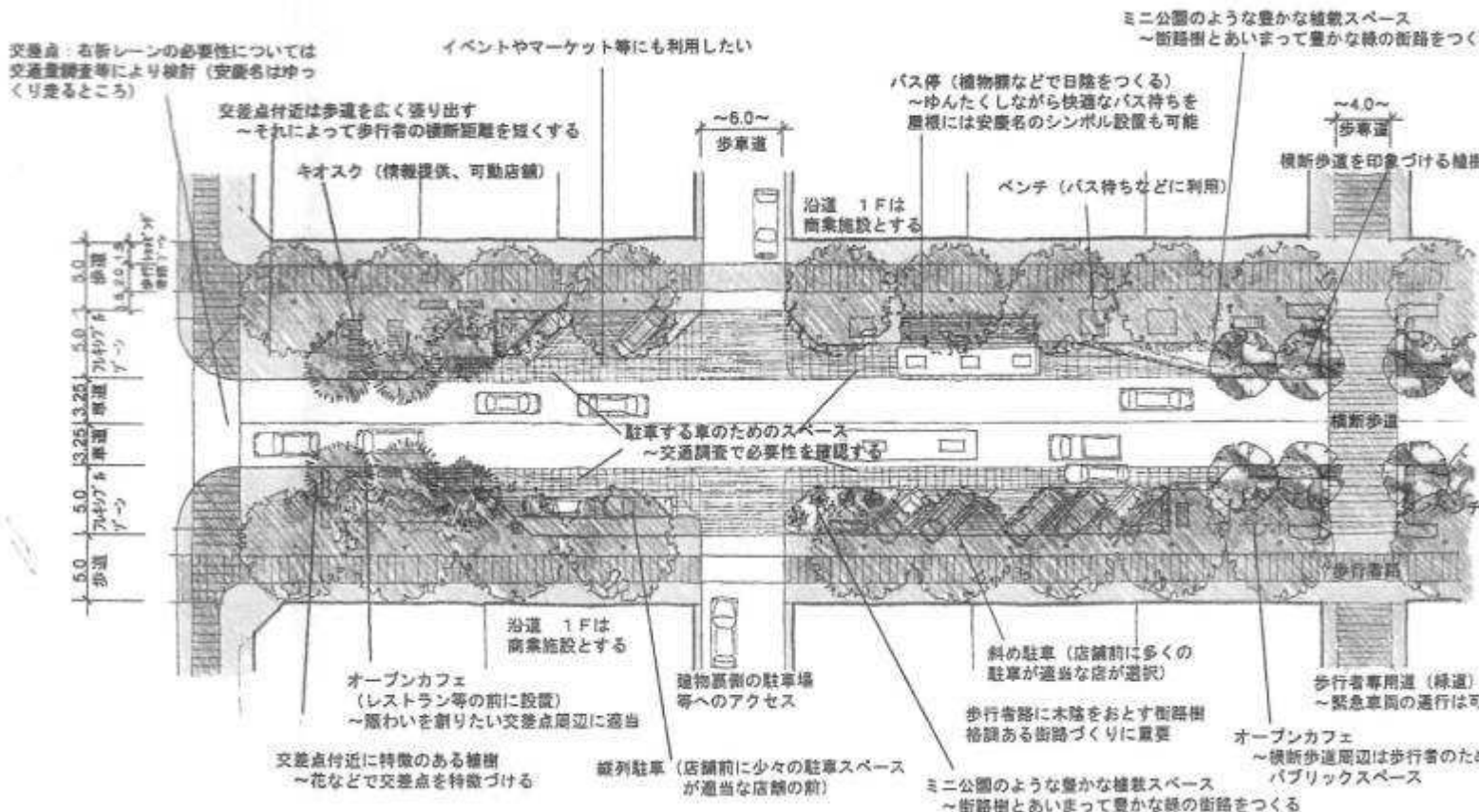
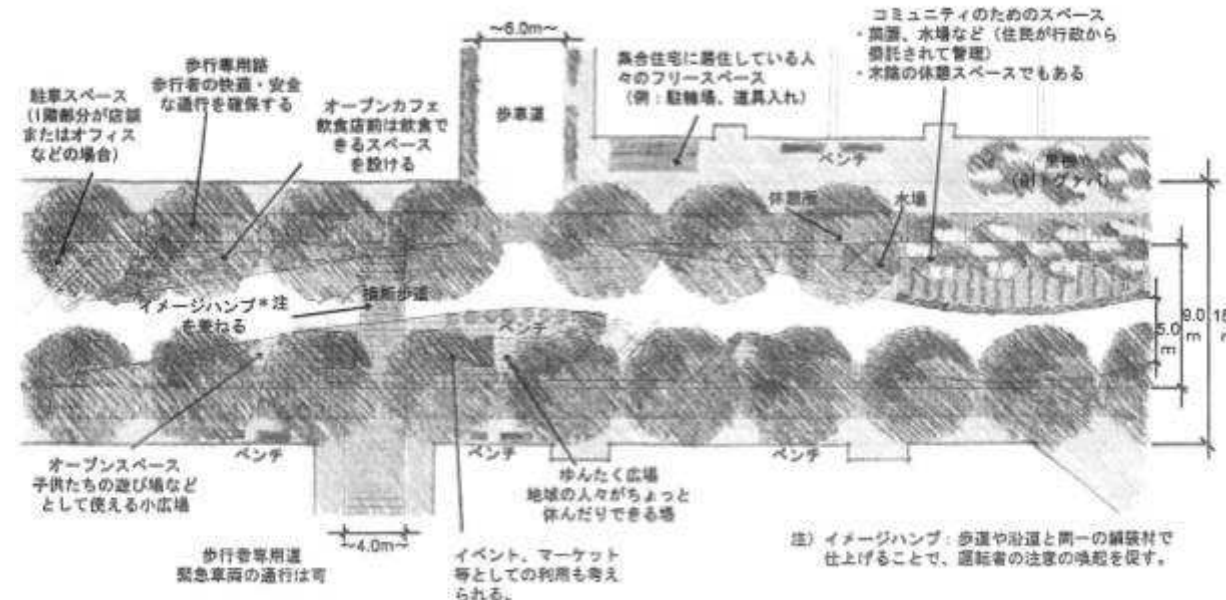
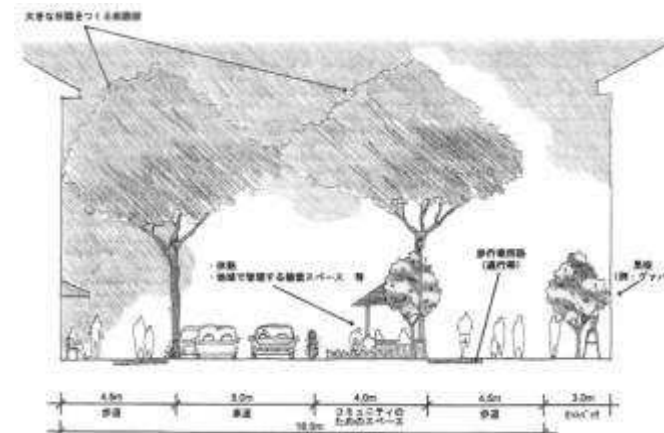
【県道75号線（沖縄石川線）：幅員26.5mのポイント】

- 沿道の1階部分は商業施設と想定し、快適かつ楽しいストリートライフを支える公共空間をつくる。
- 歩きやすい歩道とするために、幅員2mの歩行者路（歩行帯）を確保する。（そこに歩行の障害となるものは設けない、置かない。
- 木陰をおとす街路樹を設ける。また、そのほかに多様な緑を設ける。
- 幅員5m程度の「フレキシブルゾーン」を設け、その利用は沿道商業者の希望に配慮して「まち」の合意により決定する。
- フレキシブルゾーンの使い方は、オープンカフェ、斜め駐車、緑化空間など多様なものが可能。また、沿道（特に1階部分）の土地利用が変わった場合には、それに応じてフレキシブルに変更することができる。
- 車道は2レーンとする。「安慶名はゆっくり走るまち」であることをドライバーに認識してもらう。



【幅員18.0m道路のポイント】

- 歩行者が歩きやすいように幅2mの歩行者専用道路（通行帯）を設ける。
- 歩行者専用路に日陰をあたえる街路樹を植える。
- 歩道と車道の境界の段差は最小限に抑える。障害者や高齢者でも通行しやすいデザインとする。
- 車道を蛇行させ、車がスピードを出しにくいようにする（クランク式とすることも考えられる）。
- 車道と歩行者専用路の間の空間は、沿道の建物によって利用方法を変えられるようにする（例えば事務所前は駐車場、集合住宅の前は地域で管理する植樹帯、花壇等）。
- 駐車場は建物の裏側などにまとめて配置するようにする（街路に面した1階が駐車場の連続にならないように）。



今後の課題：各街路の計画案について

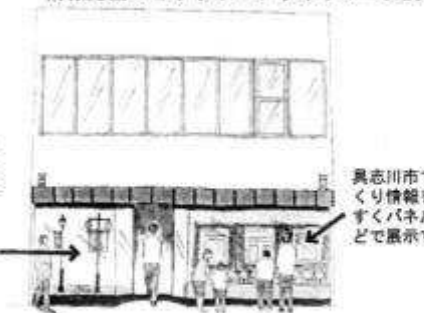
上記までの計画案は各幅員別道路における標準的な部分について、ワークショップでの意見を集約した「意見集約図」であります。今後、このプランの実現化に向けては、右折帯の必要性や駐車機能の導入の有無、歩行スペース管理方法等については社会実験や関係機関との調整が必要であり、さらに地域の土地利用意向の動向を見据えたなかで具現化に向けて引続き検討を行うものとします。

安慶名まちづくり推進センターの活用方法について

いつもワークショップ等で利用している「安慶名まちづくり推進センター」ですが、普段はシャッターが閉まり、入りづらい印象があります。そのため、この推進センターをまちづくりの拠点としてより一層活用するための方策を検討しました。（以下は提案された主な意見）

- 周辺に学校が多いので、学校に貸し出し等をする。
- シャッター周りのガラスで囲まれた空間をショーウィンドウのようにして情報を発信・展示する。
- 地元の子供の絵などを展示するようなコミュニティホールとして活用。
- 安慶名や具志川のまちづくりに関する情報を発信する拠点とする。
- 1階は情報館、2階は和室とし、皆がくつろげる空間とする。（多様な使い方とする。）
- 常時、誰かいて事業進捗状況がわかるようにする。等

具志川まちづくり情報発信ショウウィンドウのイメージ例



住民の意見をより多く取り入れるための工夫としてショウウィンドウを活用する。例えば、街灯ミニチュアを展示して、そのデザインについて住民の意見を取り入れる。

現在活用されていないショウウィンドウを安慶名のまちづくりのための情報発信の場として活用する。

今後、これら意見を実現するための管理・運営方法等について具体的に検討を進めていきます。